



指導案は完成したけれど、本当にこのめあてとまとめでよいのだろうか。



下の例のような「めあて・まとめのセルフチェック」を実施されてはいかがでしょうか。

指導案の完成の前に!!「めあて・まとめのセルフチェック」(例)

学習指導要領解説を参考に、目指す児童生徒の姿を想定して授業を考える

1. 導入	ペア	○前時のふりかえりから、「円周角の定理」「中心角」「円周角」という言葉の意味を再度確認する。
2. 本時の確認 本時のゴールを全体で共有する	一斉	○前時のふりかえりをもとに、本時の課題を確認する。

【めあて】円の中にできた角の大きさは、どのように求めることができるだろうか。

3. 課題解決
個人：
↓
ペア：

【質の高いめあてになっているかをチェックしましょう! ☒がつけば、◎のめあてです!】

☐まとめと正対している。
※本時の目標、まとめから、本時で児童生徒が、何ができるようになればよいかを逆算しめあてを設定しましょう。
※本時の単元名やタイトルがめあてにならないようにしましょう。

☐本時で「何ができればゴールなのか」を児童生徒がイメージできるめあてになっている。
※「相手が納得する説明をしよう」のような、活動がめあてにならないようにしましょう。

☐授業が終わった後、児童生徒が自分の学びを評価できるめあてになっている。
※「〇〇名人になろう」「日本一美しい字を書こう」「考えながら歌おう」など、児童生徒が「達成できない」または「達成できたかどうか評価できない」めあてにならないようにしましょう。

☐子どもの「なぜ?」「～したい」という課題(問題)意識をもとにしためあてになっている。
※導入で児童生徒に予想させたり、意見交換から出た疑問(問い)からめあてを設定しましょう。
※教師があらかじめ想定している言葉をただ引き出しただけのめあてにならないようにしましょう。

4. 考え

【質の高いまとめになっているかをチェックしましょう! ☒がつけば、◎のまとめです!】

☐教科でつけたい資質・能力に沿ったまとめになっている。
※「図に表すとわかりやすい」「学習用語を使えば書くことができる」など、どの単元、どの領域でも当てはまるまとめにならないようにしましょう。

☐本時で学んだポイントや板書に残ったキーワードをもとにしたまとめになっている。
※本時で学んだ内容ではないまとめにならないようにしましょう。
※子ども一人一人の言葉でまとめを書くようにしましょう。

まとめからの逆思考で授業を構成!

このまとめを子どもから引き出すためのキーワードは...

【まとめ】

・「等しい弧」がないかを探したり、円周角や中心角が作れるように補助線を引いたりすることで、円周角の定理を使って求めることができる。

研究の秋です。この時期は、授業研究会等で指導案を作成したり検討したりする機会が多いのではないのでしょうか。指導案を作成するのはとても大変ですが、「指導案を完成させること」がゴールではなく、単元や題材で身につけるべき資質・能力を明確にしたり、指導の意図を参観者に伝えたりするためのツールとして活用することが大切です。